

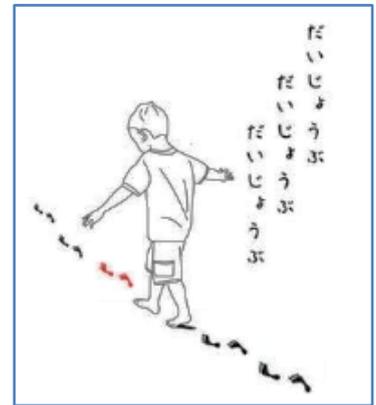


- ・進んで学ぶ生徒 (知)
- ・心豊かな生徒 (徳)
- ・たくましい生徒 (体)

1年間の終わりに、2学期の終わりに「大丈夫！！」を学ぶ。

今日は、2学期の終わりに、「大丈夫」という言葉を2種類に分けて、紹介したいと思います。

さて、ここで3年生の校長面接がほぼ終了しました。私は、面接の最後に「この機会に校長に聞いてみたいことは、ありますか？」という質問で面談を終わりにしていました。生徒からの質問は、多種多様なものがあり、この質問がものすごく興味深いものでした。不謹慎な言い方に聞こえてしまうかもしれませんが、この時のことを全部紹介したいくらい楽しい一時なのです。その中で、意外に多かったのは、「先生が生きてきて（校長で）一番大変だったとき（辛かった時）は、どんな時ですか？」という質問でした。それをどのように乗り越えましたかも？」も含めて考えると今の受験という現実がつかなくて聞いているのか、私の毎日が気楽に楽しそうに見えるのか？他に悩みがあって聞いているのかは、定かではありませんが、私は、ひとり一人に精一杯誠実に回答したつもりです。正直なところ今まで生きていた中で、つらかったことをあげれば山のようにありますが、今となっては、その経験が今日の自分の血となり肉となっていると実感しているので、「辛い」という一言で片付けられないところがあります。また、今も続く毎日の仕事も、一つ一つ対応すべき大切なことがあるので、率直に言えば今が一番大事で、それ以外は、過ぎ去ったことなので、変えられない過去となっています。そう考えると人は、今というタイミングの渦中が一番つらく感じるのかもしれませんが、自分の身に起こることは、問題や課題も人の捉えかた次第です。人から見たら大したことのないことでも、本人にとっては、凄くつらいとか、その逆で他人が見たらほんとに大変そうに見えても渦中の本人は、意外にその逆境を意欲に変えて楽しんでいる人もいます。人は色々です。私は、以前、同僚の校長達に「本当に吉田さんには、大変なことが、次から次へと良く起きるね」「何かあったら吉田さんに聞けばいいね」などと揶揄されましたが今は、歳を重ね周りが年下の校長ばかりになったので、そんなことを言う方もいません。しかし、その中



で一つ言えることは、本当に一生懸命に向き合っていれば、・・「本当にですよ」必ず何とかかります。「大丈夫」です。この言葉に、まったく根拠も示さず、論理的でもなく、無責任な言い方に聞こえますが、「本気で一生懸命にやっていれば道は、開けます。」私に、本気でやっていれば「必ず誰が見ていて助けてくれる」とか「神様は、越えられない試練をその人に与えない」など、色々励ますしてくださる方もいましたが、結果的にそうなっても、最初から自ら挑まず、助けを期待しては、降りかかった困難から抜け出るのは、叶わないでしょう。でも、生きてさえいれば展開も変わります。何故なら時間軸は、常に動いているからです。永遠に辛いことが続くことはありません。これが前半の「大丈夫」です。

後半の「大丈夫」も、恐縮ですが、一つ自分の経験を含めお話しします。私は、以前に勤めた学校で、非常にストレスのかかる仕事についていたと思われま。自分のことなのに、他人事みみたいな言い方になってしましますが、その時の自分には自覚がなく、今になって家族から言われたことだからです。自宅に帰っ

た私は、非常に口数が少なく、様子がおかしかったそうです。家族から度々の「大丈夫？」という問いかけに、常に「大丈夫！」と答えていたそうです。家族は、いつ病院に連れて行こうかと考えていたそうです。

この例は、言葉だけでは、前半に述べた「大丈夫」と混同しやすく矛盾して聞こえるかもしれませんが、これから述べる「大丈夫」には、気を付けようと思っています。5つ紹介します。

- 1、本当に何もなく普段と変わらないので「大丈夫」だから「大丈夫」と言う。
- 2、少し大変だけど、まだ耐えられるから「大丈夫」と言う。
- 3、すごくきついけど、自分を知らない、その人には、「大丈夫」としか言えない。
- 4、すごく大変だけど、その人を心配させたくないから「まだ大丈夫」と言う。
- 5、もう限界に近いけど、「まだ大丈夫」と言う。



今から思えば一番身近な家族が普段と違う私の行動をおかしいと思っていたのですから、もっと助言を素直にうけとめ、試していれば良かったと思っています。

しかし、その経験から今では、いくつかの解決方法を得ました。一番お勧めは、「人に自分の悩みを話すこと」です。または、「悩みを聞いてもらう」です。「人に自分の悩みを話すことと、悩みを聞いてもらうこと」の両方とも、会話にならなくてもいいのです。とにかく「話をすること」自体に意味があります。「悩みを聞いてもらうこと、話すこと」で、ストレスの発散効果と自分自身が何に悩んでいたのかを整理できたりすることもあります。話す人は、自分のことを損得なく愛し、理解してくれる人に話すのが、理想です。しかし、人間は、人間関係による感情の変化が大きく、この存在を見つけることは、大変難しいことです。仲の良い友達への相談は、もちろん大切ですが、人の心は、時とともに変化していきますので、話せる人は、一人いればいいくらいのレベルで考えましょう。

もう一つは、自分と全く利害関係のない人、少ない人です。代表的な例で挙げると法律で守秘義務が位置づけられているカウンセラーなどの立場の人です。もちろん家族もあります。私には、祖父がその存在でした。祖父の言葉で「まだ大丈夫」と言う者に「悩みがないわけがない」と言うのが、胸に刺さりました。

キーワードは、「信用できる大人に話す。」ということです。このような人の存在は、間違いなく人生の財産です。美原中学校で過す皆さんが、一人でも多くこのように「話を受けとめてくれる人」に育つと、更に学校や地域は、居心地の良い心地よい学校や地域に成長します。

今年も早いもので今日が2学期の終業式です。私は、この一年間、皆さんに伝えたいことを私なりに真剣に伝えてきたつもりです。難しい話の時もいつも静粛に聞いてくれてありがとう。そして、話を聞いてくれる皆さんに、私も救われてもいたのです。3学期は、残り少ない今年度ですが一日一日を大切に過ごしていきましょう。良いお年をお迎えください。 令和6年12月24日 終業式 式辞より

校長見聞録

私の中学時代は、実家が商店街で菓子屋を営んでいたもので、小学生であろうが、受験生であろうが、はたまた、年末に教員として勤めはじめても実家に戻ってきて手伝うのは、暗黙の了解であった。当時は、年末の時間の流れがよくわかるのは、ごった返していた客足であった。大晦日の7時くらい「レコード大賞」と言う番組が始まると、少し客足が落ちつき、紅白歌合戦の始まる頃に一度ぴたりと止まった。ゆく年くる年が始まり、シャッターを下ろすころには、店の前を通る人が、帰省やスキーに行く人が駅に向かい、初詣に行く晴れ着の方が店の前を通ると1年が終わったなと感じた。小中学生の頃は、家族でXmasを過ごしたり年の暮れに、こたつで、ゆっくり過ごすことにあこがれもあった。今となっては、当時の私の過ごし方も、自分の居場所があったんだと思う。人それぞれ色々で良いのだ。生徒達は、どのように過ごすのだろうか。今でもお正月の空は、澄んで、青空も夜空も美しく広がる。何よりゆったりと流れる時間を味わってほしい。暮れから元旦にかけて数時間で雰囲気が変わるが、生徒達には、この機会に、それぞれに心の中に各自の居場所があることを知ってほしい。

